

（敦賀・若狭関係の木簡）

若狭と敦賀の木製の荷札

概要

若狭国は、特定の税や貢納物を食物の形で朝廷に納めていました。8世紀にこのような支払いのための荷札として使われた木簡と呼ばれる木の板が、古代の首都であり、現在の奈良県にあった藤原京や平城京から出土しています。板には、荷元の地域や関連する税または貢納物、貨物に含まれる食品の種類が刻まれていました。若狭からの支払いには、大量の塩と、タイ、イガイ、ウニなどのさまざまな海産物が含まれていました。

もっと詳しく知る

宮廷への食糧供給の証拠

若狭地方の木簡という板は、かつての首都であった藤原京（694 年～710 年の都）、平城京（710 年～740 年と 745 年～784 年の都）の発掘調査で出土しました。このことから若狭国は、御食国と呼ばれる、天皇や朝廷のための食糧を供給する地として指定された地域であったことが伺えます。その他の御食国は、淡路国（現在の兵庫県淡路島）、伊勢国、志摩国（いずれも現在の三重県）である。

出土した最古の木簡は 687 年のものです。木簡は通常はヒノキまたはスギでできており、長さは 8cm から 24cm です。その文字を調べると、貨物がどの地域から来たのか、どの税の支払いに関係しているか、誰が納税者であるか、どのような種類の食品が含まれていたかなどの情報が明らかになります。

記録された納税形態

この荷札の多くは、調ちようという、年齢と労働能力に応じて調整された平民階級の人々に課される一種の個人税を支払うための、塩の出荷を記録していました。当時、様々な税はお金ではなく、米や大豆などの食料で納められていました。しかし、調は生糸や材木など、米以外の品物で支払われなければなりません。若狭国は重要な塩の産地であったため、ここの住人たちの調という税の主な支払い形態は塩でした。

その他の都に向けた荷物として木簡に記載された食品には、マイワシ、タイ、イガイ、ウニ、アワビ、ホヤ、イカ、ナマコ、海藻などがあります。

展示品

古い都の跡地から出土した木製の荷札の複製が大きなガラスケースに吊り下げられており、それぞれ

の板の表と裏の両方が容易に見られます。このケースの隣にあるタッチパネル式の木簡ナビは、数十点の木管を年代・出荷地・内容物の 3 つのカテゴリーで検索できるデジタルデータベースです。各ページには、高解像度の板の画像と古い日本語の文が表示され、現代日本語訳と出荷内容の説明が添えられています。